

令和 6 年度

全国学力・学習状況調査の結果の概要

令和 6 年 4 月 1 8 日実施（市内全小・中学校実施）

小学校第 6 学年 国語 算数 児童質問紙

中学校第 3 学年 国語 数学 生徒質問紙

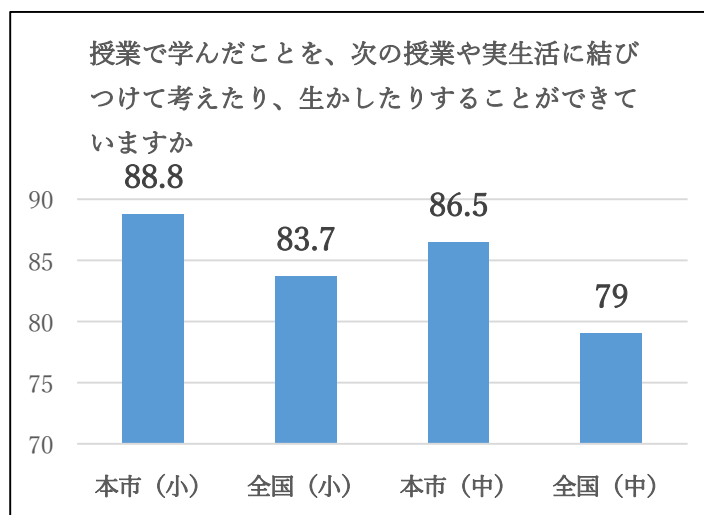
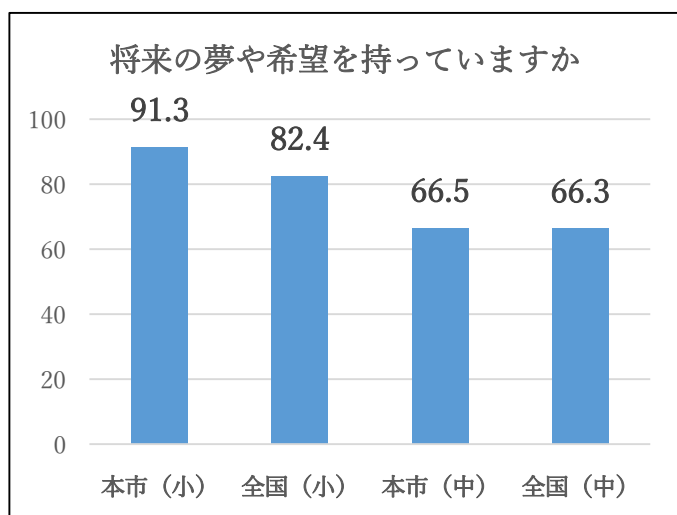
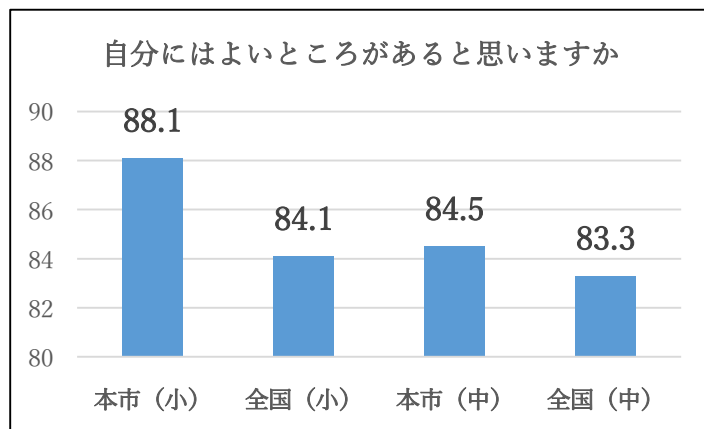
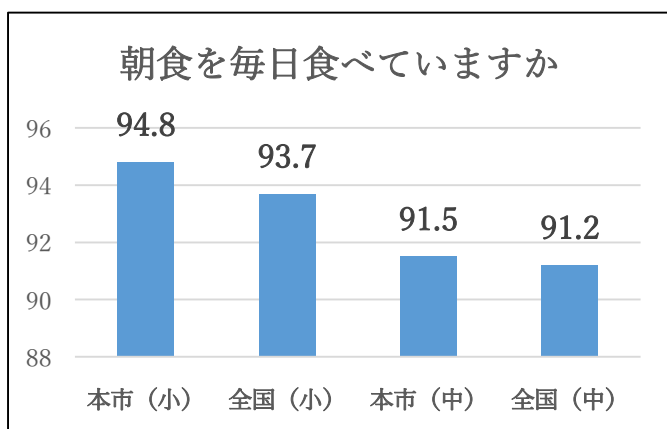
1 学力調査の状況

小学校第 6 学年

	成果	課題
国語	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えあう内容を検討すること ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること	●話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと ●文の中における主語と述語との関係を捉えること ●日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと
算数	○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること ○角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること ○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること	●直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解していること ●速さの意味について理解すること ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断すること

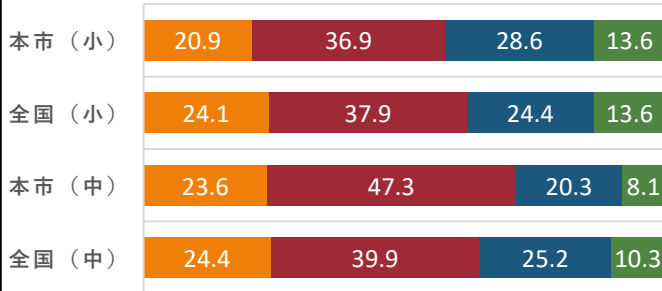
	成果	課題
国語	○文脈に即して漢字を正しく書くこと ○短歌の内容について、描写を基に捉えること ○行書の特徴を理解していること	●必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること ●話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめること ●目的に応じて必要な情報に着目して要約すること
数学	○回転移動について理解していること ○問題場面における考察の対象を明確に捉え正の数と負の数の加法の計算をすること ○複数の集団データ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること	●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明すること ●与えられたデータから最頻値を求めること ●事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと

2 質問紙調査の状況



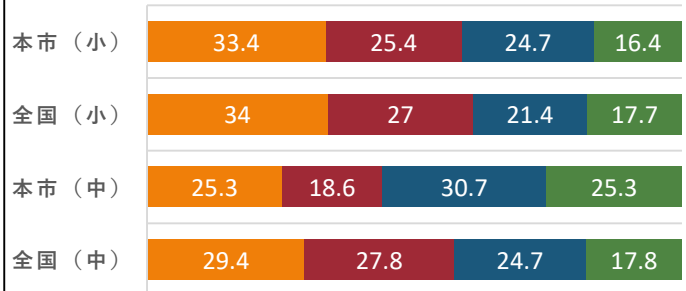
国語の勉強は好きですか

- 当てはまる
- どちらかという、当てはまる
- どちらかという、当てはまらない
- 当てはまらない



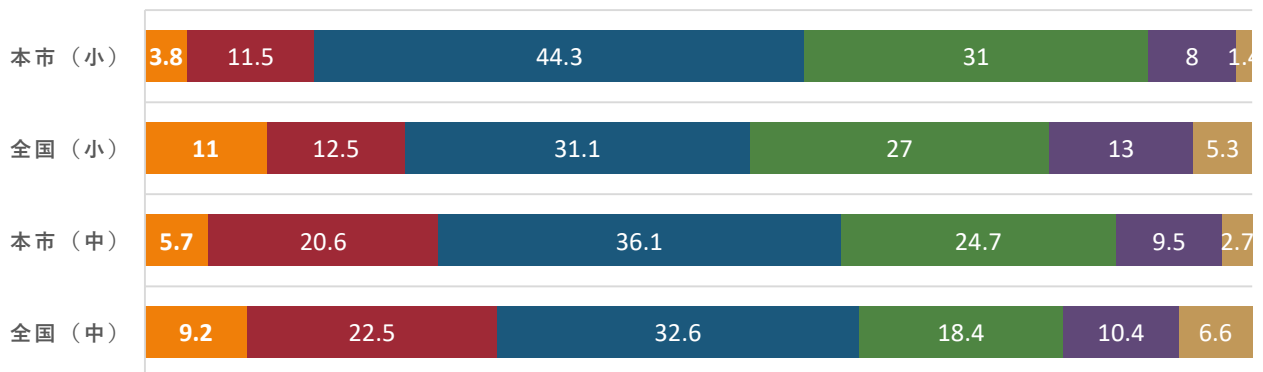
算数・数学の勉強は好きですか

- 当てはまる
- どちらかという、当てはまる
- どちらかという、当てはまらない
- 当てはまらない



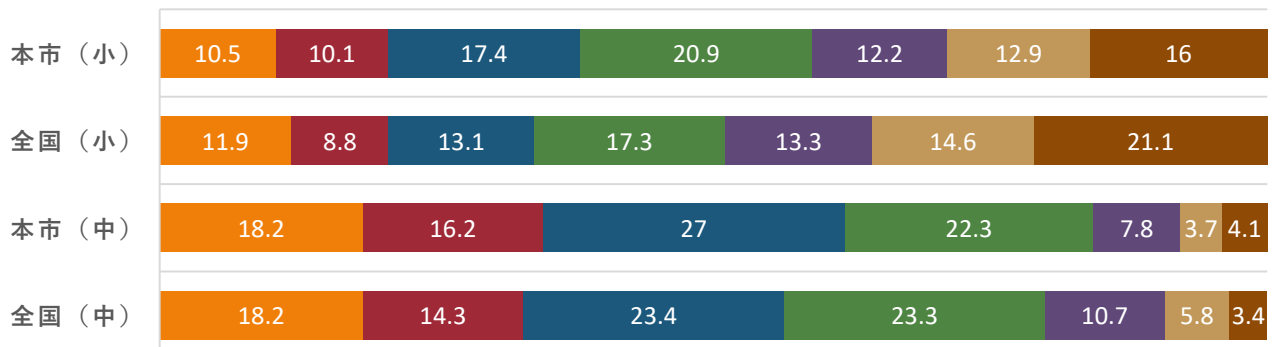
学校の授業以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか

- 3時間以上
- 2時間以上 3 時間未満
- 1時間以上 2 時間未満
- 30分以上 1 時間未満
- 30分未満
- 全くしない



平日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォン等でSNSや動画視聴をしますか（学習時間は除く）

- 4時間以上
- 3時間以上 4 時間未満
- 2時間以上 3 時間未満
- 1時間以上 2 時間未満
- 30分以上 1 時間未満
- 30分未満
- 持っていない



- ・小学校においては、国語及び算数ともに、「思考・判断・表現」を問う問題において、全国平均を上回る結果が見られた。特に、記述式の問題についても全国平均を上回っており、これまでの課題が改善されてきている。一方、「知識・技能」を問う問題においては、全国平均を下回り、つまづきが多く見られた。基礎的・基本的な「知識・技能」が定着していないことが明らかとなっており、今後も引き続き課題となっている。授業において、学習の目標や「付けたい力」を明確にした授業を展開する中で、「知識・技能」を活用して課題を解決する場面を意図的に取り入れたり、授業の「振り返り」の時間を確保し、その授業で学んだことを再認識したりすることで、基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図る。
- ・中学校の国語では、「知識・技能」を問う問題において、全国平均を上回る問題があった。しかし、「思考・判断・表現」を問う問題において、全国平均を大きく下回る問題が見られた。今後は、授業の中で得た「知識・技能」を活用し、試行錯誤しながら課題を解決する過程を通して、「思考・判断・表現」の確実な定着を図る。また、数学においては、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を問う問題のいずれも全国平均を下回る結果となった。授業において、本時の目標を明確にし、生徒が主体的に学習に取り組める課題の設定、基礎的・基本的な「知識・理解」の習得と活用を通して、本市の学力における課題の改善を図る。
- ・児童質問紙、生徒質問紙については、「朝食を食べていますか」、「自分にはよいところがあると思いますか」、「将来の夢や希望を持っていますか」、及び「授業で学んだことを、次の授業や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていますか」の項目において、全国平均を上回る結果となった。児童生徒の自己肯定感が高まっていることが分かる。また、自分自身の生活について肯定的・建設的に捉えていることも分かった。一方、「国語の授業は好きですか」や「算数・数学の授業は好きですか」の項目については、小学生の国語、中学生の数学において、全国平均を下回る結果となった。児童生徒が主体的に授業に取り組むための課題設定の工夫と、「分かるから、できる。できるから、楽しい。」と思えるような「分かる授業」を目指していく必要がある。
- ・「学校の授業以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」については、1日の学習時間が、全国平均と比べると少ないことが分かる。今後も、タブレット端末の持ち帰りを推奨していくなど、児童生徒にとって取り組みやすく効果的な学習を提示していく。「平日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォン等でSNSや動画視聴をしますか（学習時間は除く）」については、小学生、中学生ともに、全国平均を上回り、長時間のSNSや動画視聴を行っていることが分かった。スマホ依存にならないために、情報機器の使い方について、家庭におけるルールづくりの啓発と、児童生徒への情報教育を推進していく必要がある。